

山梨の未来をひびらかに人づくり



山梨の未来を担う子どもたち一人一人が、それぞれの個性・能力を生かし、社会を生き抜く力を身に付けるためには、自ら学び、考える力が必要です。県では、学校・家庭・地域が一丸となった学力向上対策に取り組んでいます。

子どもたちの可能性を広げる国語力

国語力は学力の土台を築く力です。読解力・表現力を身に付けることは、全教科に良い影響を及ぼし、学力向上につながっていきます。

そこで今回は、直木賞作家の辻村深月さんが、母校である笛吹市立石和東小学校を訪れ、国語力の大切さや、どのようにして作家になったのかなどを児童たちに伝えてくれました。

豊かな時間を本にももらいました

「小学校に入学して図書室に来たときに、ここにある本を全部読んでいいんだと思ったら、すごく幸せな気持ちになったことを今でも覚えています。私は小中学生の頃が一番いろいろな体験をしたように思うのですが、それはたぶん本を読んでいたからではないでしょうか。本を読むことの一番良いところは、他人になれることです。他人の考え方や人生、舞台となっている町の様子が入り込んでくるように感じていました。本からもらった豊かな時間が、その後のいろいろなことに、つながっていたように思います」



学校の図書室には、辻村さんの作品を集めたコーナーが

国語力は、理解力の根っこになります

「好きな学校の教科は国語でしたが、算数など他の教科で困った記憶はありません。それは国語力が私を守ってくれたから。文章を読んで分かるという読解力は、全ての教科に応用できます。本を読むことで得た国語力は、私にとって何かを理解するための根っこになってくれたように思います。それに、読書は人生を豊かにするため

の貯金のようなものです。本を読むという時間の使い方を知っているかいないかで、将来的な時間の過ごし方も変わってくるのではないのでしょうか。読書が苦手という方もいると思いますが遊び感覚でいいので興味を持った本をまずは一冊読んでみてください。そうすることで、読み終えた時の楽しさと達成感がきつと味わえるはずですよ」



「小説家は特別な職業ではなく、みんなと同じこの教室で勉強していた読書好きの一人の人間になったもの…。そんな実感みたいなものが皆さんに伝わったら、うれしいですね。懐かしい教室ですてきな時間を過ごさせていただきました」と笑顔で語る辻村さん

最後までやり遂げる気持ちで、未来につながる

6年1組の教室で教壇に立つ辻村さんの話には、児童たちは夢中で耳を傾けていました。そんな児童たちに辻村さんは、自身が小説家になるまでのエピソードや夢をかなえるためのアドバイスをしました。

「小説家になりたいと思ったのは、小学校3年生の時です。当時、交換日記がはやっていて、その中で私はホラー小説を書きました。決して上手に書けたわけではないですが、一つの小説を完成させることができました。最後までやり遂げたことが、自信につながるものです。小説家は特別な仕事と思うかもしれませんが、実は小学生の時の原稿用紙一枚を埋めるという作業が、今の仕事につながっているんです。皆さんも興味を

あることが見つかったら、まずそれに向かって何か始めてみるのが大切です。やってみることはいつか急になうものではなく、学校の勉強や読書、自分が今やっているさまざまなことがこの先につながって実現していくものだ、というふうに思ってもらえたらうれしいですよ」

作家 辻村深月さん Mizuki Tsujimura

1980年笛吹市生まれ。幼い頃から本が大好きで、石和東小学校3年生の時に初めて小説を書く。千葉大学教育学部卒業後、山梨県内で働きながら小説を書き、2004年『冷たい校舎の時は止まる』で第31回メフィスト賞を受賞し、作家デビュー。2012年には『鍵のない夢を見る』で第147回直木賞受賞。



動画で見よう! 辻村深月さんのインタビュー

①スマートフォンまたはタブレットに「Layar」のARアプリをダウンロード②無料ARアプリを起動③右の写真にかざした後、タップすると動画が再生されます。

ar Layer(レイヤー)



学力向上に向けた 学校・家庭・地域の連携

小学6年生と中学3年生を対象とした平成28年度全国学力・学習状況調査

が本県でも4月に実施され、県全体としては全国平均正答率を下回る教科も見られました。また、1日当たり1時間以上、家庭学習に取り組む児童生徒の割合は6割程度と、こちらも全国平均を下回っています。

県では、こうした状況を踏まえ、県独自で行っている学力調査の結果を今年度から速やかにフィードバックし、各学校での指導に生かせるようにしました。

特に、「授業改善」、「教員の資質向上」、「家庭・地域との連携」に重点を置

き、学力向上に向けた取り組みを実施しています。

「授業改善」では、授業改善プラン実践事業推進校に指定された県内の小中学校各8校が、学力調査の結果を基にした改善授業を実施しています。その成果は、フォーラムなどで報告し、他校の授業でも活用されています。

「教員の資質向上」においては、退職した教員が学校へ出向き、若手教員の指導を行っています。

「家庭・地域との連携」として、放課後や土曜日などを活用した補習的な学習支援を行っています。また、家庭における効果的な学習方法を掲載した冊子を作成し、児童生徒と保護者が家庭学習の必要性を実感してもらえようとする取り組みも行っています。



学力向上に向けた取り組み

授業改善

家庭・
地域との
連携

教員の
資質向上



分かる授業を広めていく、授業改善

授業改善プラン実践事業推進校では、学力調査の結果を踏まえて県が示す「授業改善のポイント」を基に、「授業改善プラン」を作成して授業を行い、学力向上フォーラムを通してその成果の普及を図っています。

生徒が主体性を持って受ける授業、そこには日常生活に関連した内容が
— 甲斐市立双葉中学校 —

授業改善プラン実践事業推進校となり3年目を迎えた本校では、各教科での授業改善、生徒が主体的に学ぶアクティブ・ラーニングの取り組みも高まりを見せています。

今日の数学の授業では、タクシー料金についてお客さんから尋ねられた旅行会社の社員になったつもりで、距離と料金について考えるところというストーリーで関数を教えました。授業は、私からの問題説明の後、グループごとに話し合い、その結果をプレゼンテーションするという流れにしました。

結論に至るまでのプロセスと根拠に重点を置き、グループで考えをまとめ



甲斐市立双葉中学校 教諭
青柳 香さん

ていくアクティブ・ラーニングは、考え

を人に伝えるための表現力や国語力も必要となるので、数学だけではなく幅広い学びの習得につながります。こうした実践的な授業をすることで、生徒たちには自分の言葉で表現する能力が備わってきたように感じています。

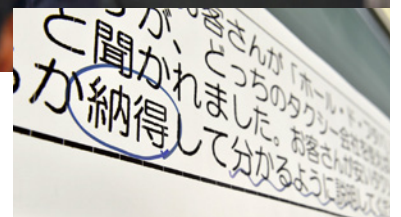
また、本校では保護者と連携し、生活のリズムを整えたり、家庭学習の定着を図るなど、当たり前前のごことを丁寧にする習慣を身に付けることも大切に行っています。



具体的にイメージしやすい問題の設定だと、楽しみながら考えることができます



これまではただ問題を解くだけでしたが、アクティブ・ラーニングを通して数学に対する考え方が変わりました



「日常生活と数学とのつながりを実感していない生徒の実態を意識し、根拠を明確に表現することに重点を置き、日々の授業に取り組んでいます」と語る青柳先生



真剣なまなざしで先生の話聞く、生徒たち



プレゼンテーションで人の意見を聞くことにより、多くの気付きがあり、自分の意見を分かりやすく話せるようになりました



若手教員の資質向上のために

教職経験3年以内の教員の資質向上を図るため、退職教員がアドバンスティーチャー(教師力向上促進指導員)となり学校へ出向き、学習指導や学級運営などに関する実践的な指導や助言を、マンツーマンで行っています。

人間としての幅を広げ、表現力を身に付けてレベルアップを

若手教員にとっては、理論的・体系的な研修はもちろん、ベテラン教員から現場における生の経験や技能を引き継ぐことも大切です。そこで私たち退職教員がアドバンスティーチャーとして学校に出向き、マンツーマンで授業に関する実践的な指導、生徒指導に関するアドバイスなどを、自らの経験に

基づき行っています。若手教員の皆さんには豊かな人間性と、表現力を身に付けてほしいと思っています。

若手教員にとっては、理論的・体系的な研修はもちろん、ベテラン教員から現場における生の経験や技能を引き継ぐことも大切です。そこで私たち退職教員がアドバンスティーチャーとして学校に出向き、マンツーマンで授業に関する実践的な指導、生徒指導に関するアドバイスなどを、自らの経験に



中北教育事務所 アドバンスティーチャー
石川 正人さん



南アルプス市立白根源小学校
教諭 足達 亮祐さん
ベテランの先生に私の授業を見てもらえる機会があり、感謝しています。アドバイスも的確で分かりやすいです



南アルプス市立白根源小学校へ出向き、足達教諭に実践的指導を行う石川さん



家庭・地域との連携による学習支援

子どもたちの基礎学力の定着と学習意欲の向上を図るため、家庭学習の習慣化に向けた学校独自の取り組みや、放課後・土曜日などに教職志望の学生らが指導員となつて行う補習的学習を各地域で実施しています。

放課後学習を通して感じる教えることの楽しさ

私は小学校から大学までずっと都留市で学んでいますので、それに対する恩返し気持もあり、都留市立谷村第二小学校で、放課後学習支援活動を行っています。

子どもたちが学力を身に付けることで、日々の生活の中でも自信を持つことができることを願いながら教えています。今は学生という立場なので、子どもたちにとって、身近で頼れるお兄さんのような存在でありたいと考えています。



都留文科大学4年
宮下 健汰さん

この活動によって多くのことを学ばせてもらっていますので、ここでの経験を教師になつてからも生かしていきたいと思っています。



都留市立谷村第二小学校では、都留文科大学の学生らが指導員となり、放課後学習を実施



宮下先生は優しいから、来てくれるとうれしいです



苦手な算数が前より頑張れるようになったよ

自主学習ノートを使い、家庭学習の習慣を身に付ける

大月市立大月東中学校

授業改善プラン実践事業推進校となつている大月東中学校では、生徒の家庭学習の習慣化を促すために、自主学習ノートを使った指導を進めています。その日の授業を振り返り、自主学習ノートに書いてまとめてみる学習法は、授業と家庭学習を結び付けることができ、家庭学習で何をしたらよいか困っている生徒にも取り組みやすい内容です。このノートは私たち教員が毎日チェックし、学習の進捗状況を確認すると同時に、教師から生徒へアドバイスをするコミュニケーション

ケースツールにもなっています。生徒の独自性や工夫を尊重したノート作成による家庭学習は、生徒の表現力の育成にもつながり、確実な成果も現れ始めています。



大月市立大月東中学校 教諭 大澤 裕加さん



見つけた課題は授業改善の目安になっています

生徒一人一人のノートからは、その子なりに努力する姿が見られ、ノート作成が学力を伸ばす土台になっていると感じています。教員はノートから見えてきた課題を授業に取り入れるなど、授業改善の目安にもなっています

大月市立大月東中学校 教諭 小俣 好文さん

家庭学習の改善策を示した冊子「家庭学習のすすめ 学びの甲斐善八か条」の活用を

山梨の子どもたちは、好奇心に溢れ、さまざまなことにチャレンジする一方で、スマートフォンやゲームなどで遊ぶ時間が長く、家庭学習の時間が他の都道府県よりも短いという課題があります。各学校でも家庭学習を推進する独自の取り組みを行っていますが、県としても何か後押しができないかと考え、冊子「家庭学習のすすめ 学びの甲斐善八か条」を作成しました。この冊子では、家庭学習の改善策を八つのポイントで示し、特に第一条ではノーベル賞を受賞した大村智さんのメッセージを掲載し、学びが人や社会の役に立つことを伝えています。

また、子どもと保護者に家庭学習の重要性を共有してもらえよう、掲示資料「八のつく日は『家庭学習』振り返りの日」を配布しました。家族の目に入りやすい所に貼り、皆さんで話題にしていきたいと思っています。



「八」という字は富士山の形に似ています。富士山のような学びの高みを目指してほしいと思います 義務教育課 小田切 武 副主幹・指導主事



冊子「家庭学習のすすめ 学びの甲斐善八か条」 県内公立小中学校の全児童生徒に配布。県内公立図書館や公民館へも置き、地域への浸透も図っています。